

日本うま味調味料協会 御中

## “化学調味料無添加”表示関連消費者調査

### --- 調査集計報告書 ---

#### 【調査概要】

#### 【主要調査結果】

- ・Q1～Q2: “化学調味料”基本認識
- ・Q3: “化学調味料”種類認識
- ・Q4: “化学調味料無添加表示”認識
- ・Q5: “化学調味料無添加表示”購入動機影響

2016年7月28日

株式会社 エム・ディ・アイ ラボラトリ

## ■ 調査目的

- A. “化学調味料無添加表示”優良誤認
- B. 無化調表示の消費者購買動機影響度合いの確認

## ■ 実施時期

2016年7月1日～7月4日

## ■ 調査内容

一般消費者の認識：

- ・ 化学調味料
- ・ 無添加



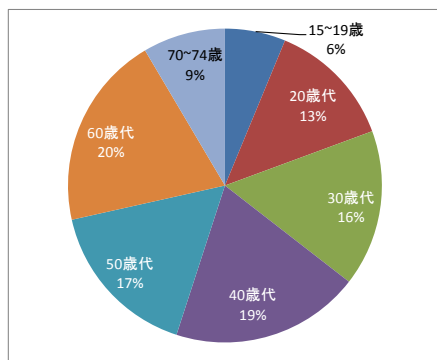
一般消費者の意識・行動：

- ・ 無添加と安全安心
- ・ 購買行動影響

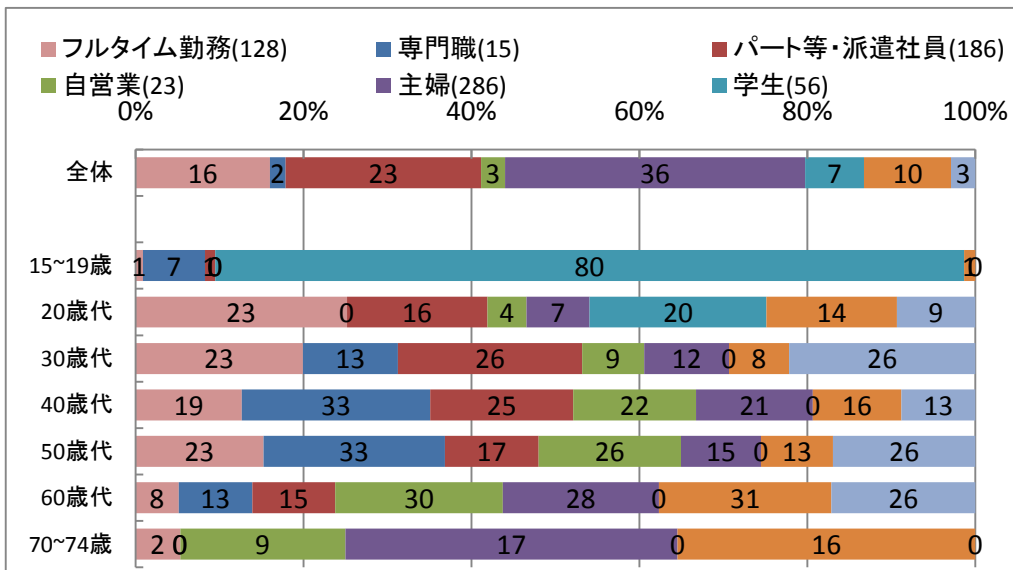
- 1) “化学調味料”の物質の定義についての認識
- 2) “化学調味料”の蓋然的判断の具体例：“化学調味料と言えば△△△”
- 3) “化学調味料無添加表示”の形成するイメージ
- 4) 購買決定要因の中の“無添加表示”の位置づけ

## ■ 調査サンプル

	女性
15～19歳	50
20歳代	105
30歳代	129
40歳代	156
50歳代	132
60歳代	160
70～74歳	68
15～74歳計	800

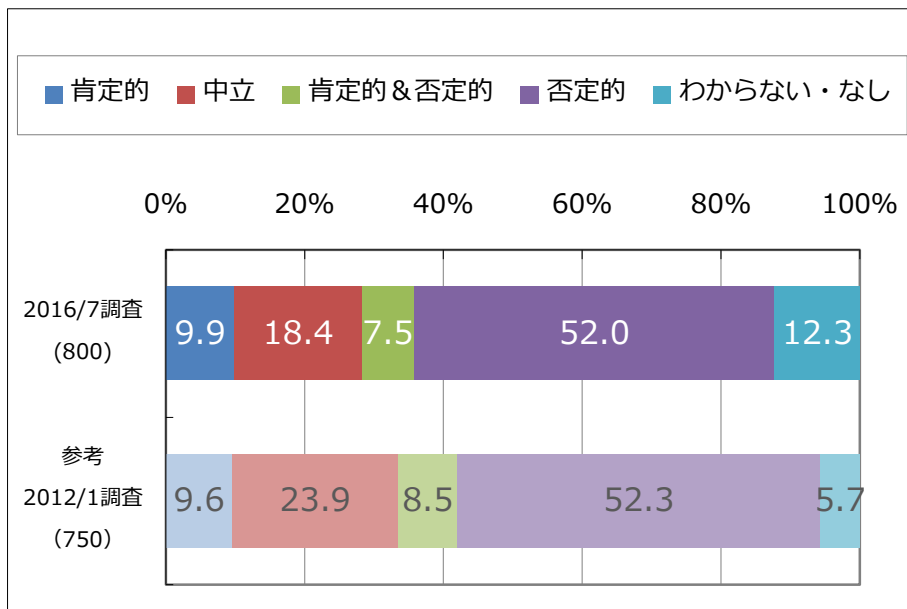


調査は今後のコミュニケーション強化ターゲットとして、女性だけに絞り込んだ。  
年代別は推計人口2016/5/1暫定値を参考に割付を行った。



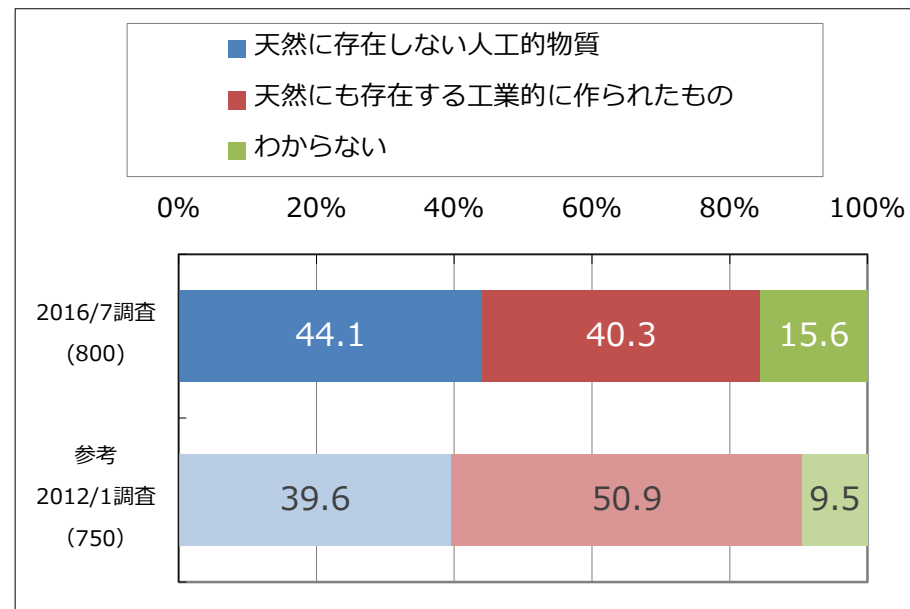
Q1. “化学調味料”という言葉にどのようなイメージをお持ちですか？(FA)

否定的意見が過半数(52%)で、“わからない”が2012年に比較して倍増(13%)。



Q2. “化学調味料”という言葉についてあなたの理解に当てはまるものはどれですか？(SA)

“天然に存在しない“が”存在する”よりやや多くなった。“存在する”は2012年に比較し10.6%減少し、“わからない”が増加。



■FA(自由回答) フラグと記述具体例の対応表

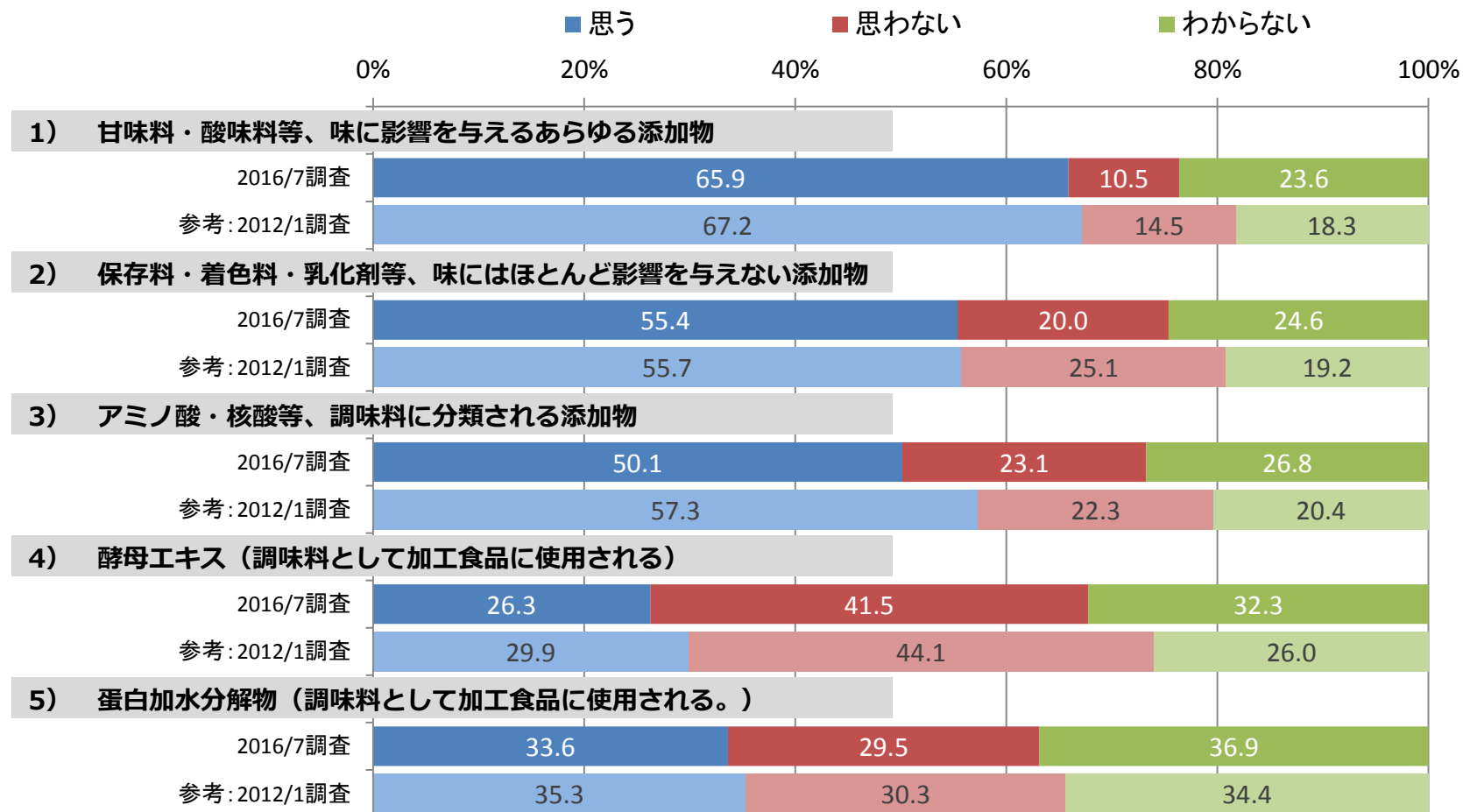
肯定的	中立	肯定的&否定的	否定的	わからない・なし
おいしい	味の素	保存がきく。身体に影響ありそう。	天然でない	特になし
ちょうど良い味付けができそう	アミノ酸	危険だが必要不可欠	自然でない、不自然	なし
味が良くなる	グルタミン酸	体に悪そう、美味しい。	人工	分からない
味をまろやかにする	旨み成分	手軽だが自然でない感じ	人工的、添加物	特に思い浮かばない。
手軽でおいしい	食品添加物	人工的に作ったもの。手軽。	化学的に工場	特にイメージはない。
簡単にだしが採れる	中国、中華料理	体には良くないけれど美味しい	良いイメージはない	何が違うのか分からない
上手に利用すれば、お料理がおいしい	近年では様々な加工食品やお菓子に含まれるイメージ	人工的調味料、味は美味しさが感じられる	味が人工的、美味しくない	
天然物より安価で使いやすい。	塩コショウ	旨み成分。人工調味料。	身体に悪い	
うまみ成分が入っていて素材の味を引き立たせてくれるもの。		自然から作ったものであっても合っている	体にはあまり良くない	

Q3. 以下のものはあなたの理解では“化学調味料”に入りますか？

化学調味料とされているものは“甘味料・酸味料等”が一番多く、“酵母エキス”が一番少ない。

2016年の“思う”数値は2012年対比減少傾向で、“アミノ酸等”は7割減少。

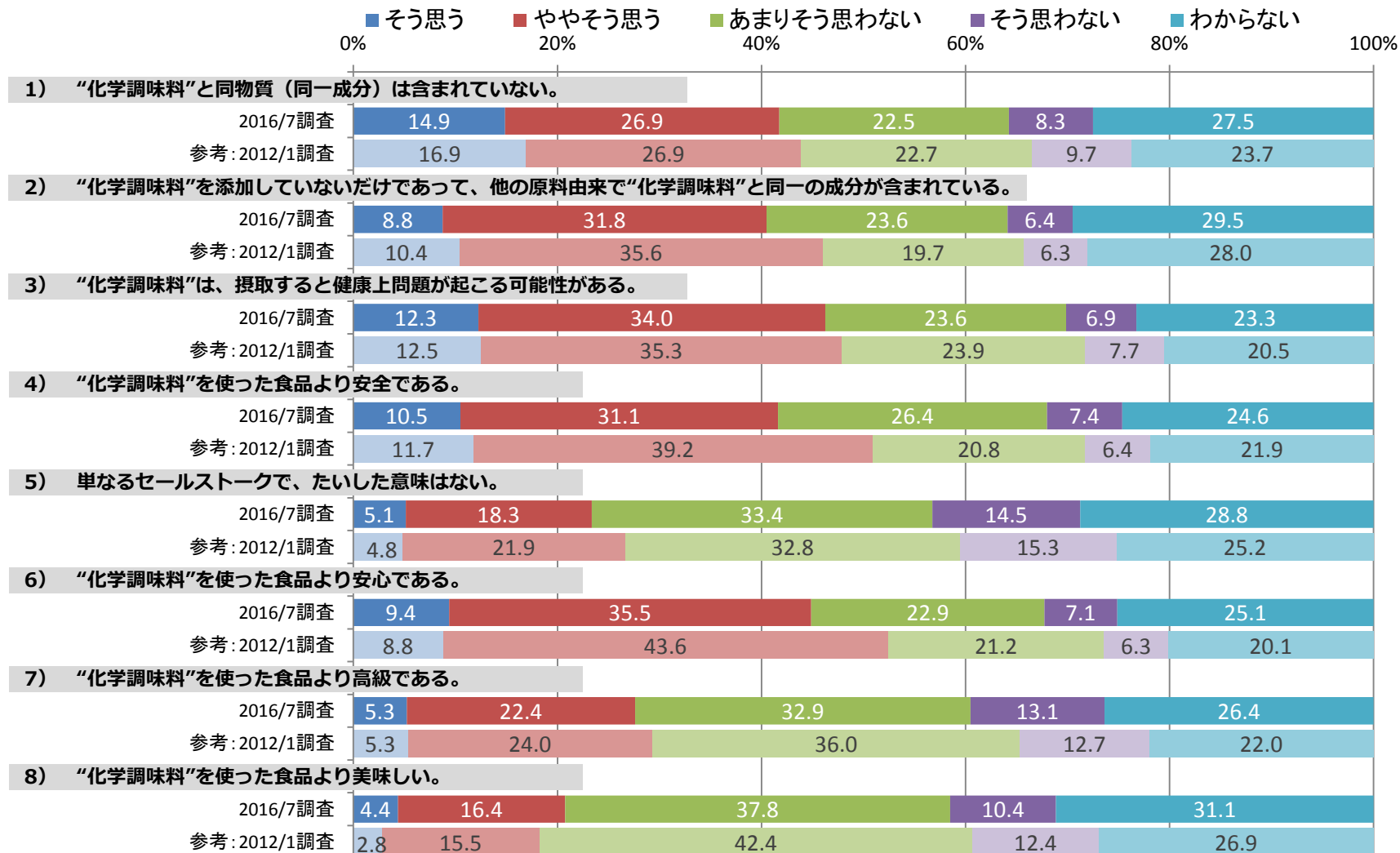
“思わない”も全て減少していて、“わからない”が増加している。



Q4. “化学調味料無添加”という表示のある食品を見た時に以下の項目についてどのように思いますか？

TP (Total Positive = “そう思う” + “ややそう思う”) は“8) 美味しい”以外2012年より減少している。特に“4) 安全”、“6) 安心”は8~9割減少している。

全体に“わからない”という回答が3~5割増加しているものがほとんどである。



Q5.食品を購入される時に以下に挙げる表示がされている場合にどの程度購入の決め手になりますか？（SA）

“無添加”表示を“要因”とする割合は、合成着色料＞保存料＞化学調味料 であるが、大きな差はない。

各項目とも“一要因だが他の基準優先”が一番多い。2012年の“要因にすることはほとんどない”が減少して、“一要因”の増加に移ったと考えられる。特に化学調味料は“要因にすることはほとんどない”が10%減少し“一要因・・・”がそれぞれ増加。一方、“最大の要因”としている人もそれぞれ減少している。

■最大の要因 ■一要因で、かなり重きを置く ■一要因だが、他の基準を優先 ■要因にすることはほとんどない。 ■何れにも当てはまらない。

